

サイクル数の違いでは、差は見られなかった。肝臓も実験群で肥大の傾向にあった。肝臓中のパントテン酸含量は実験群で減少していた。1秒間に500サイクル、2,000サイクルとを比較すると、2,000サイクル曝露の方が肝臓中のパントテン酸含量の減少が大であった。

#### A-10 騒音と栄養について 第2報 副腎と肝臓におけるストレス の影響

立正女短大 ○岩村 泰子  
実践女大 元山 正  
国立栄研 高居百合子

1. 我々は騒音下において、どのような栄養源を摂取したら、騒音によるストレスが緩和できるかを知るために実験を行なっている。

第1報ではベルの刺激によって副腎のビタミンCが減少することが明らかになった。しかしながら、音の質については検討されていないので、その点を明らかにすること、音のストレスによって前報で測定したビタミン以外にパントテン酸の含量がどのように変化するかを知ることを実験の目的とした。

2. 幼白鼠16匹を固形飼料で一週間飼育したのち、之を2群に分け、各群とも飼料を除き水のみを与えた。実験群に対しては、曝露、騒音にホワイトノイズを95ホーンに調節し、騒音を5分曝露し、5分休憩操作を4時間反覆曝露した。4時間後直ちに瀉血して殺し、肝臓、副腎を摘出して重量を秤り、パントテン酸、総ビタミンCを測定した。騒音の基礎実験として、1秒間に500サイクル、2,000サイクルの音を前記同条件で曝露した時の臓器の重量、肝臓中のパントテン酸を測定した。

3. その結果、副腎は対照に比べて実験群は肥大し、